

2022フォーラム「パパ、ママ、子どもまるごと支援」　ズーム参加者感

回答者　24名

設問1　印象に残った言葉や内容

- ・重度でも選択できる。本人に聞く
- ・家でも頑張っているが、(療育センターで先生方が関わっているようなやり方をしているつもりでも)、なかなかうまくいかない
- ・子どもの相談はするが、親の相談はしない
- ・娘が幼い頃、療育を家でもやってくださいと言われて、うまくいなくて本当に辛かった事を思い出しました。
「早く早く。どこのデイサービスがいいなど沢山の選択枠がありすぎて子どもに合った場所を探すのが難しい」私だけではなかったんだなと思って聞いていました。
- ・学校と関係機関との連携を保護者がコーディネートしなければいけない状況について、栗原先生がその役割を支援者がしなくてはいけないと言ってくださったのが心強かったです。
- ・20歳になったら礼服を買うこと
- ・栗原さんのお話から「親がコーディネーターやスペシャルワーカーの役割をいつまでやらなければならないのか」。林さんの言葉から「今、福祉職に就く人は素人ばかり。親が教育する意識をもって」私の子育て時代から、環境は変わっても実情は何も変わっていないんですね。栗原さんの苦悩が伝わってきました。また、療育センターでは法人内の研修などの職員を育てる環境はどのように

整備されているのか気になりました。入所部門では、親は職員を育てるなんて無理な話と感ずます。

入所児童の死亡事故を起こした教訓は、法人内でどのように活かされているのでしょうか？

- ・意見交換の際の栗原さんの自己効力感の話

- ・栗原さんの保護者支援はお母さんが子どもをかわいいと思えるようにすることが目的だという言葉。最初はそれを求めて療育センターへの通園を始めたが、いつの間にか私が一人で頑張らなくては、と思っていたことに気づき、悲しくなつた。学んで試行錯誤することも楽しいが。

- ・栗原先生が「お父さんお母さんは支援者でも専門家でもない」と仰っていたのに対し、意見交換会で林先生が「この(障害者福祉)業界に入ってくるのは素人ばかり。親がしっかり育てた方がうまくいくのでは」というようなことをおっしゃっていて、混乱した…と言う意味で印象的でした。

- ・環境と精神年齢の話。子どもに進路を選ばせる話。

- ・解決するか共に考える仲間を作っていくこと(伴走者)が大事であること。もし二次障害等で、家庭での生活リセットが難しい場合、短期入所という方法があるという例やその際の注意点

- ・栗原敦子氏のお話のみの視聴をしました。息子の学校で音楽療法の授業をしてくださっているので、興味深く聴きました。育てていく子どものその先の見通しを相談できる場が大事であると仰っていました。継続的に相談し、子どもの将来を見据えて支援すれば子どもの明るい未来に繋がることが分かりました。

- ・栗原さんの、親亡き後の安心のためだけでなく、本人の自立や豊かな体験のために GH やショートステイがあるという考え方に共感致しました。

- ・子どもの療育に関わる方は、未経験者が多い

- ・福祉サービスにも限りがある現状の中で解決方法を探すことも大事
- ・地域が、サポートが必要な方の声を拾っていく。地域に根付く為には、働くこと条件が下がって、知的の障害があっても年齢に見合った事をさせる、という趣旨の言葉にハッとさせられました。
- ・貴重なお話しありがとうございました。特に、林先生のお話は、印象に残る内容が多く、もっとお話を聞かせて頂きたいなと思いました。我が子が支援学校の小学2年生なので、子どものうちは、言葉を増やすことを大事にする、両手を広げた範囲内で伝えること、忘れないようにしようと思いました。また、10年前と比べ、重度の自閉症児が施設にいないというのは、どうしてなのかとても気になりました。そして、やまゆりのような公立の施設では、虐待が…というのはゾッとのお話しでした。

設問2 フォーラム全体について（日程や時間配分、申込み、参加の方法等について）

- ・今のままで良い。
- ・子どもを主人に見てもらい、参加しました。録画の配信が後日あれば良いと思った。
- ・土日より平日の方が保護者は参加しやすいという意見は多いです
- ・質問の時間に直接出てくる生の話や言葉が現状を映し出していました。時間をしっかりと割いてくださったのは、とても良かったです。
- ・土日は夫や子どもがいるので、平日の午前中が好ましいと思った。
- ・オンライン開催はありがたかったのですが、画面共有されているアカウントと実際に講師の音声

が入っているアカウントが違うために、どの画面を見ればよいのか数分混乱しました。また、機材トラブルも多かったようですので、リハーサルを確実に行っていただきたいと思います。また、司会の方の PC はバーチャル背景になっていましたが、今回のようなハイブリッド型ですと、会場の様子がわからなくなってしまうので、バーチャル背景はやめてほしかったなと思います。オンライン開催だと、3時間近くはなかなか集中力が持ちません。参加方法が会場かオンラインかを選べたらより良かったなと思います。栗原先生の講演は時間の割にボリュームが多く、付いて行くのが大変でした。せめてオンライン参加者にも資料を配っていただけたらと思います。また、アーカイブ配信ができるのがオンライン開催のいいところです。振り返るためにも、ぜひアーカイブ配信を検討いただけますようお願いいたします。

あとで見直せるような配信方法にしてほしい。

・同日同時間帯で、発達障害応援キャラバンの講義があったので、今回は重複しないように事前調整してほしい。

・休憩時間をはさんでくださったので、長時間でも無理なく参加できました。祝日だと参加しにくいのですが、土曜日だったので久しぶりに参加できてよかったです。

・特にありません。

・発表者がもう1、2名居ると良いかと思いました。

・zoom は参加し易くてありがたいです。当日に参加が難しい時に録画配信などがあると嬉しい

・オンラインで、どこからでも聞けるようになったのはいいことだと思うのですが、質問のしやすさなどを考えると、対面がいいなあ、と個人的には思いました。子供を見ながらだと、なかなか集中

出来なかつたりもしますので…。

設問2 来年度のフォーラムで取り上げて欲しいテーマなど

- ・生活の場となっている地域などで、孤独や孤立感を感じるようになるママ(保護者)たちを追いつめないようにしていく為には、教育現場(子どもたちがいる)でやれることは何か?など
- ・子どもがまだ未就学児で目先のことばかりなので、今後どんな流れで就学、就労、、となるのか、知りたいです。
- ・知的障害のある女の子の思春期の過ごし方や支援方法を聞きたいです
- ・zoomではなく会場などで出来るようになると良いですね。
- ・「人生の見通し」子はもちろん、親が見通しを持つことも大事であると、お二人の講師の話から感じ取りました。
- ・with コロナの社会との繋がり方
- ・保護者支援について深めてほしい。近くにでんでん虫さんがいない。療育センターの通園が終了したら、親は子どもの発達について自分からどんどん学びに出ないとならないのが現状。親の学びに繋がる支援・社会資源について知りたい。キーパーソンとなるスーパーバイザーがほしい。
- ・インクルーシブ教育と特別支援教育、不登校、福祉と教育の連携、子どもの進路
- ・就職など、少し先のこと。親が死んだ後のために備えておくべきこと。
- ・本来学校と放デイはどのように連携していくべきか

- ・グループホームに関する情報があれば有難い。

- ・学校卒業後の就労や住まいについて、一般的な話ではなく経験者や支援者の具体的な話が聞きた

い

就労、自立に向けて、それぞれの世代、各年齢で目指す課題

- ・川崎市内の障害者雇用をしている会社、就労A Bの事業所など実際に運営されている方のお話を

聞いてみたい

- ・発達障害に関する講座も、わりと軽めな子の内容が多いので、小学校から支援学校です。知的にも

重い子向けの講座や座談会がもっとあるといいなあ、と思っています。